

3

Once upon a time, there was an old couple.

Since the old couple didn't have a child, they  
prayed to God each and every day,

"God, please, please give us a dear child."

Then God accepted their wishes and gave them  
a tiny, little boy.

Since that boy was as short as an <sup>\*1</sup>Issun, the old  
couple named the boy Issunboshi.



5

Although several years have passed since then, Issunboshi never grew any bigger.

However, the old couple rigidly taught Issunboshi many things, such as how to wield a sword, and the manners of samurai.

And owing to their efforts, Issunboshi grew up to be a good and wise child.

One day, Issunboshi said to the old couple,

"Grandfather, grandmother, I will embark on a journey. As a samurai<sup>\*2</sup>, I want to go to the capital and serve in the samurai family's house there."

The couple was very surprised, but also delighted at their child's growth and they allowed Issunboshi to leave for the capital.



むかし むかし、あるところに、  
おじいさんと おばあさんが すんでいました。

こどもの いなかった ふたりは、  
まいにち かみさまに おいのりを していました。

「かみさま、おねがいします。どうか わしらに、  
かわいい こどもを さずけてください」

すると かみさまは、ふたりの ねがいを ききいれて、  
それはそれは ちいさな おとこのこを  
さずけてくれました。

そのこの おおきさは、ほんの いっすんほどしか  
なかったので、ふたりは そのこに  
『いっすんぼうし』と なづけました。



それから なんねんも たちましたが、いっすんぼうしは  
ちっとも おおきく なりませんでした。  
けれども、おじいさんと おばあさんは、いっすんぼうしに  
かたなの つかいかたや、さむらいとしての  
ふるまいかた などを、きびしく おしえました。  
そのかいあって いっすんぼうしは、  
とても おやこうこうな、  
かしこい こどもに そだちました。

あるひ、いっすんぼうしは、  
おじいさんと おばあさんに いいました。

「おじいさん、おばあさん、わたしは たびに できます。  
みやこへ 行って、さむらいとして  
おやしきに つかえたいのです」

ふたりは とても おどろきましたが、  
かわいい こどもの せいちょうを よろこび、  
いっすんぼうしが みやこに いくことを  
ゆるしてあげました。

